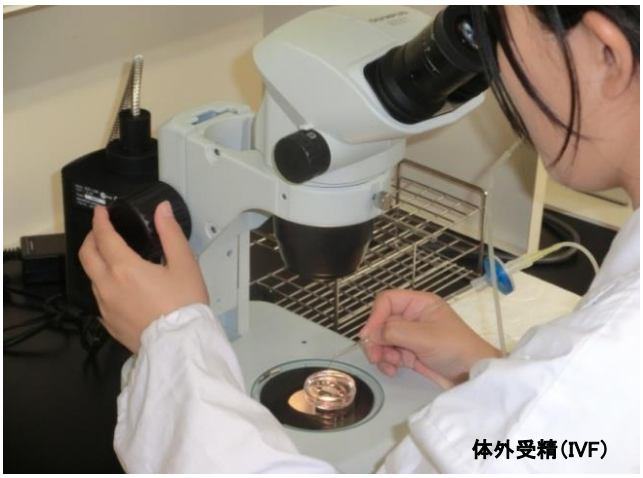
デュロック種

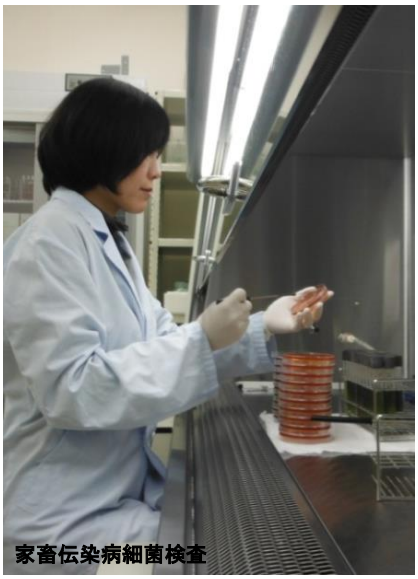
黒毛和種

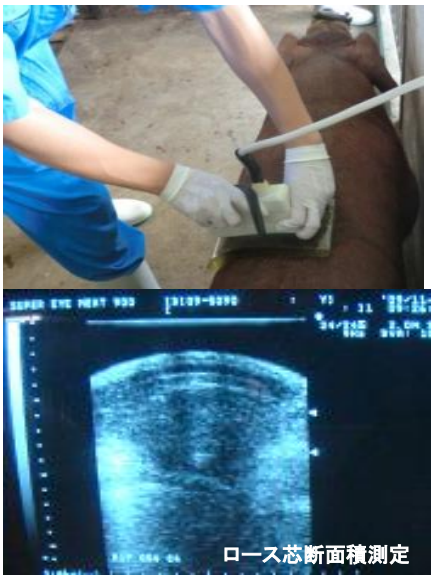
日本の畜産　改良と技術で育てます

電気牧柵設置


体外受精(IVF)

プライマリーSPF豚繁生


家畜伝染病細菌検査


ロース芯断面積測定

家畜改良センターは、家畜改良の推進、優良な種畜や飼料作物種苗の生産・供給等を通じて、
我が国の畜産の発展と国民の豊かな食生活に貢献することを使命としています。

独立行政法人家畜改良センター宮崎牧場

National Livestock Breeding Center MIYAZAKI STATION

Incorporated Administrative Agency

豚の育種改良

輸入豚肉との差別化、6次産業化の支援等を目的として、肉質に優れるデュロック種系統豚を造成・維持し、国内の種豚生産者に供給しています。また、国産純粋種豚改良協議会の一員として、優れた肉質と高い発育能力を兼ね備えたデュロック種の改良にも取り組んでいます。

なお、当場はSPF基準を満たすとともに、PRRSもフリーです。

また、フケ肉の原因となるストレス感受性遺伝子RYR1を完全に排除しています。

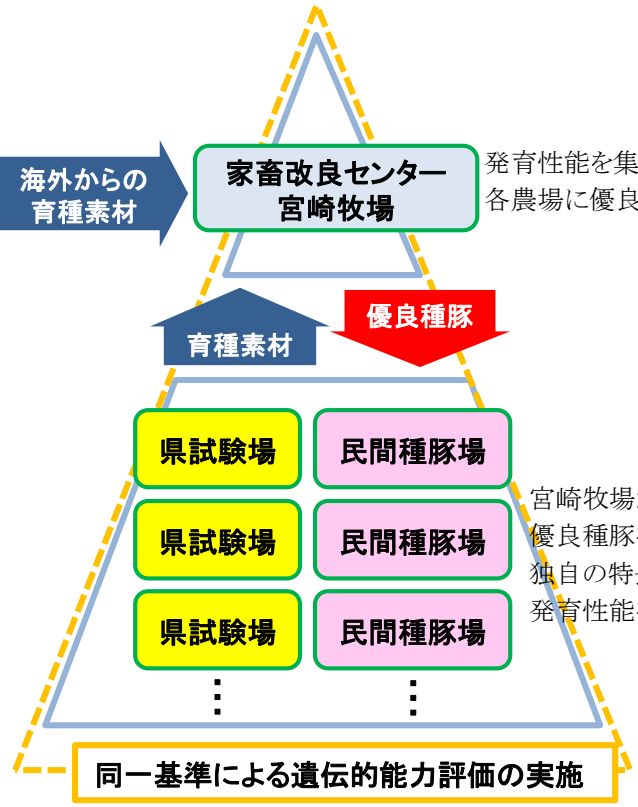
ユメサクラエース【雄】

ユメサクラエースのロース断面

	ユメサクラエース		ユメサクラ	
	雄	雌	雄	雌
1日平均増体重(g/日) *	1,172	1,070	1,137	1,032
背脂肪層の厚さ(cm) *	2.9	3.3	1.8	1.7
ロース断面積(cm^2) *	35.7	35.7	38.9	40.5
筋肉内脂肪含量(%) * *	6.3		4.5	

*　:最終選抜豚の豚平均(直接検定)

* *:最終選抜豚のきょうだい豚平均(調査豚)



発育性能を集中的に改良し、各農場に優良種豚供給。

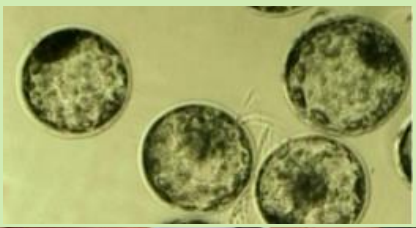
宮崎牧場が供給する優良種豚を利用して、独自の特長を活かしながら発育性能を改良。

国産純粋種豚改良協議会における改良体制

技術のポイント

【ガラス化凍結胚】

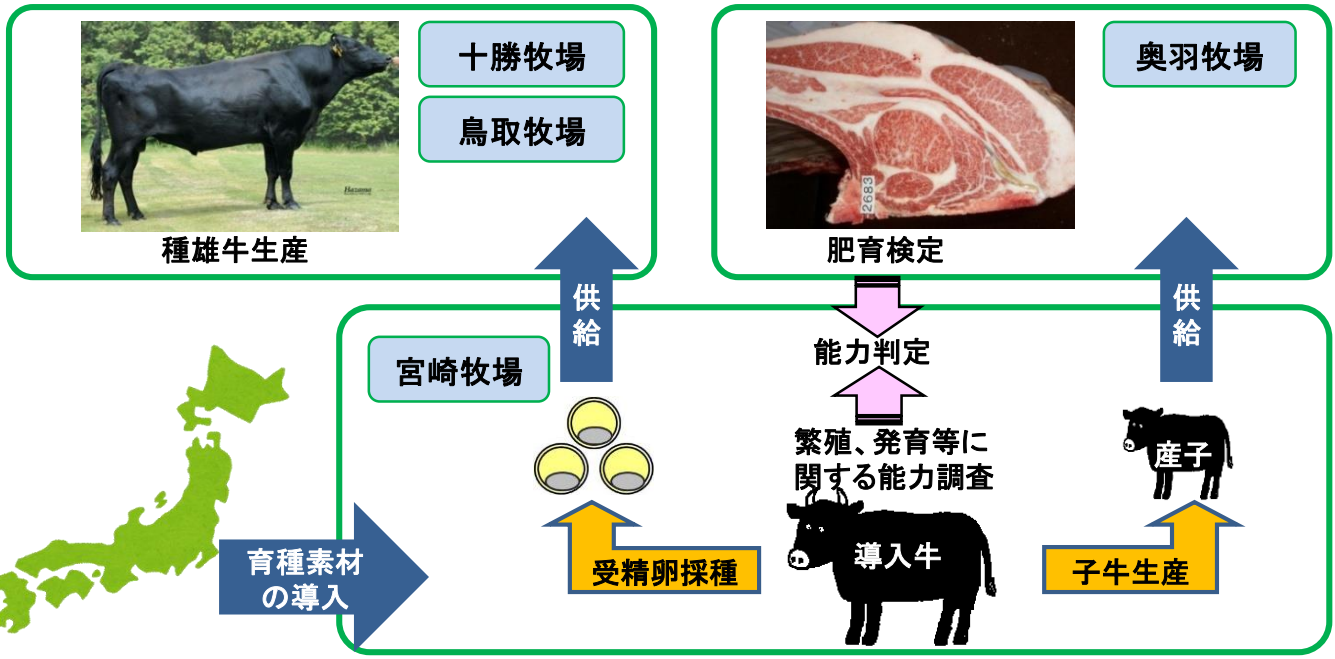
家畜改良センターが開発したmicro volume air cooling 法によるガラス化凍結胚の移植技術を用いて、衛生的な育種素材の導入及び供給を行っています。



専用の胚スティックセット

肉用牛の育種改良

家畜改良センターは、関係する複数の牧場が連携して、遺伝的に多様であり経済形質に優れる種雄牛を作出しています。このうち宮崎牧場は、全国から遺伝的に多様な育種素材を導入し、その能力を調査しています。また、導入牛から衛生的な受精卵を生産し、種雄牛生産を担当する牧場に供給しています。



黒毛和種における遺伝的多様性の問題

1991年の牛肉輸入自由化を契機として、外国産牛肉と差別化するため、黒毛和種の「霜降り」や「サシ」と呼ばれる筋肉内脂肪の多い肉質が注目されています。

このため、多くの生産者において、筋肉内脂肪が入りやすい一部の種雄牛に偏った交配が進みました。

この結果、現存する多くの黒毛和種において血縁関係が似かよったものとなっており、遺伝的多様性が急速に失われています。

遺伝的多様性が失われると、特定の病気や環境の変化に対応することが難しくなり、品種として存続することが危うくなります。

そこで家畜改良センターは、遺伝的希少性も考慮しつつ遺伝的に多様な雌牛を導入して維持するとともに、これら雌牛を利用して優良な種雄牛を作出することとしています。

技術のポイント

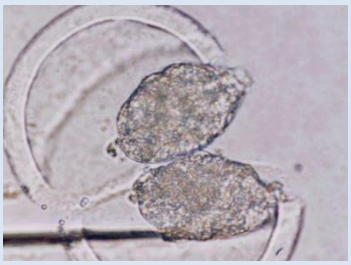
【代謝プロファイルテスト】

牛の繁殖成績（繁殖供用率や受胎率の向上等）は、栄養状態の影響を大きく受けます。そこで、血液中の各種成分の分析値や外貌の評価から栄養診断を行い、繁殖に適した飼料給与を行っています。

【分割卵由来双子生産】

受精卵を2分割して移植することにより、遺伝的に同一な双子を生産しています。

双子のうちの一方を肥育することにより、他方の遺伝的な産肉能力を早期に判断することができます。



飼料生産

肉用牛に給与する良質飼料を確保するとともに、自給飼料生産技術及び優良国内育成品種を普及展示するため、暖地型牧草の生産に取り組んでいます。特に、主要草種であるイタリアンライグラスは、極早生から晩生までの多様な品種を組み合わせて栽培し、収穫適期を分散しています。

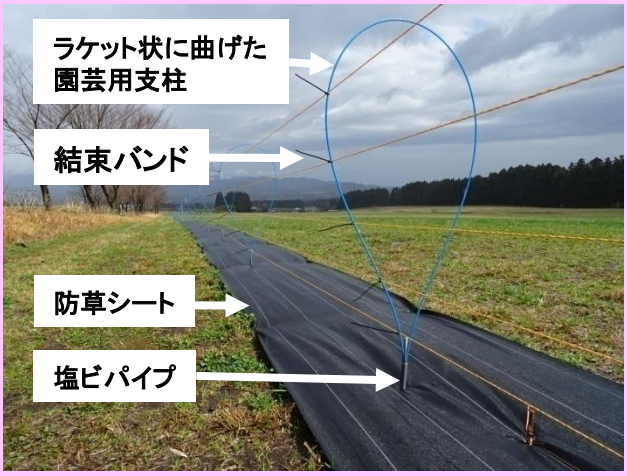
技術のポイント

【簡易更新】

起土・砕土・整地・播種・鎮圧作業を同時に行える簡易更新機を用いて、省力的な草地更新を行っています。

【獣害対策としての簡易電気牧柵】

園芸用資材等を利用した簡易な電気牧柵を設置し、シカやイノシシ等の野生動物が草地に侵入しないように取り組んでいます。



沿　革

明治32年	宮崎種馬所創設
昭和21年	旧軍馬補充部小林派出所を統合
	農林省宮崎種畜牧場に改組
昭和38年	宮崎種畜牧場鹿児島支場創設
平成　2年	農林水産省家畜改良センター宮崎牧場に改組
平成　4年	鹿児島支場を廃止して業務を宮崎牧場に統合
平成13年	独立行政法人家畜改良センター宮崎牧場に改組

組　織

総務課	庶務係、経理係、契約財産係
業務第一課	調査検定係、種豚係、改良技術係
業務第二課	調査係、肉用牛係、繁殖技術係、飼料生産管理係、機材係
衛生課	防疫係、生産衛生係

〒886-0004　宮崎県小林市細野5157－29　　独立行政法人　家畜改良センター宮崎牧場
TEL：0984-23-3500（代表）　　FAX：0984-24-0953
HP：https//www.nlbc.go.jp/miyazaki/　　E-mail：nlbc_miyazaki@nlbc.go.jp